

選挙公報

鶴岡市選挙管理委員会

榎本まさき 成長戦略の総仕上げ! 笑顔輝く鶴岡へ!

バイオ&食文化両輪成長戦略

6つの取り組み

【バイオクラスター戦略】

慶応先端研を中心に企業の創出と誘地を行い、バイオ産業を発展させます

- 今現在400名を越える研究者・職員の来鶴定住者を5年後に1,000人規模にします→地域経済効果30億円超
- バイオ産業全体で売上高1,000億円規模に押し上げ新規雇用と数十億円規模の税収を目指します
- 大学進学Uターン者の受け皿を確保します

【食文化戦略】

国内唯一のユネスコ食文化創造都市として鶴岡特有の“食”を中心に関連産業を発展させます

- 庄内固有の在来作物を始め鶴岡の食を国内外へ発信し、農業体験と観光を連携、融合した「鶴岡型ツーリズム」を開発します。
- 食科学研究機関の創設を目指します（我が国固有の食文化を研究）
- 食と農を中心に学術や観光振興などの交流人口を拡大します。

地域産業・観光振興

- 農業産出額300億円を達成します
- 交流人口を増やします
- 観光の振興を推進します
- 企業誘致

若者の雇用確保と子育て支援

- 奨学金返済の支援制度
- 地元定着とUターンの促進
- 子育て教育にかかる費用負担軽減

バイオ研究と医療福祉の充実

- いきいき健康長寿のまちづくり
- 国立がんセンターと慶應義塾大学先端生命科学研究所の連携によるバイオ産業の創出
- 介護予防の充実

文化芸術・スポーツ

- 屋内型遊具施設の建設推進
- 屋内多目的運動場の建設推進
- 新文化会館を最大限に活用

地域公共交通網への支援

- 過疎地域交通網の再構築
- 地域間道路の整備促進
- 高齢者や運転免許証返納者への支援

地域行政の自主性と多様性を実現

- 地域庁舎の課題に対応する予算確保
- 車座ミーティングと市長と語る会の拡大継続
- 8年間の実績 合計143回



榎本まさき

事務所：鶴岡市昭和町12-63 ☎64-1181 <http://www.enomotomasaki.jp>

故郷へUターンした子育て世代の視点を反映した市政にバトンタッチするのか? それとも新文化会館を“未来へ残る文化遺産”とする市政をまた4年間継続するのか?

対話で鶴岡を元気に

- 1 市長報酬を3割カット**
新文化会館論争に終止符。市政の停滞を招いた責任を明確化。毎年約2億円の市民負担をお願いするに先立ち、自ら身を切る。
- 2 発祥の地・学校給食費を段階的にゼロ**
県内ワースト1の人口減少からの脱却。ナンバー1の若者定着・子育て支援を導入。子育て世代に選ばれるまち・鶴岡に。
- 3 各旧町村に10億円規模の未来基金**
藤島・羽黒・榎引・朝日・温海、地域のことは地域で決める。旧町村の実情に精通した職員を配置し、権限・財源を抜本的に拡充。
- 4 農林漁業など岩盤産業への支援強化・循環型経済の確立**
分割発注を徹底するなど地元企業・商店街等の受注機会を拡大。地元産食材の給食での使用割合を高めるなど、農林漁業を戦略的に支援。
- 5 高齢者も障がい者も安心・いのちと暮らしを守る**
荘内病院について、設備・接遇等を検証、市民の声を反映し充実。免許返納へのバス・タクシー乗車券の交付、除雪等の高齢者支援。バリアフリーの率先実施。

5つの約束

（プロフィール）

- 昭和49年10月3日 鶴岡市生まれ 大泉小、鶴一中、鶴岡南高、宇都宮大学農学部卒
 - 平成9年 農林水産省入省 福岡県大和町（現柳川市）、内閣官房IT担当室、在シカゴ日本総領事館 領事、農林水産副大臣秘書官、食料産業局企画課課長補佐など歴任
 - 平成24年4月～26年3月 目黒区立東山小学校PTA会長
 - 平成26年 農林水産省退職 故郷の鶴岡へUターン
 - 平成26年5月～29年3月 東北公益文科大学特任講師
 - 平成27年5月～29年3月 山形県環境審議会委員
- ※著書「被災、石巻五十年。」[Uターン日記 鶴ヶ岡から故郷へ]

対話の市民党政へ

新文化会館整備を巡る一連の過程は、これまでの市の取り組み、市の意思決定プロセスそのものが市民目線とは大きく離れている現状を浮き彫りにしました。今、何よりも重視すべきことは、デザインやイベントを重視することではなく、人口減少に歯止めがかからない状況、市民の暮らしを直視し、これに正面から立ち向かうことです。市民の皆様の対話から産まれた5つの約束（重点政策）と50の政策を提示し、何をどう再生するのか成果目標が曖昧だった「ルネサンス」市政から、対話重視の市民党政に転換します。



皆川おさむ

明るい選挙キャラクター 選挙のめいすいくん



「白バラ」は明るい選挙の シンボルです

